

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成26年度 技術情報第3号（サトウキビのイネヨトウ）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成26年度 技術情報第3号

- 1 対象病害虫 イネヨトウ
- 2 対象作物 サトウキビ（春植・株出）
- 3 発生地域 奄美地域

4 情報の内容

奄美地域では、メイチュウ類（特にイネヨトウ）による芯枯れ被害の多いほ場が認められ、今後、被害の拡大が懸念されるため、適切な防除対策を講ずる必要がある。

5 情報の根拠

- (1) 春植・株出ほ場における5月の芯枯れ被害発生ほ場率は82%（昨年：89%，平年78%）で、発生程度「多」以上のほ場率は22%（昨年：8%，平年12%）と平年の1.8倍であった。特に、奄美大島（笠利），沖永良部島，与論島では、昨年と比べて被害度及び被害茎率とも、高い状況にある（第1表）。
- (2) イネヨトウ成虫の誘殺数は島毎で差があるものの、3月中旬から4月下旬にかけて増加しており、この成虫の次世代幼虫による加害が5月の芯枯れ被害の増加に繋がったと考えられる。6月以降は、さらにこの加害世代の次世代虫による被害が懸念される（第1図）。

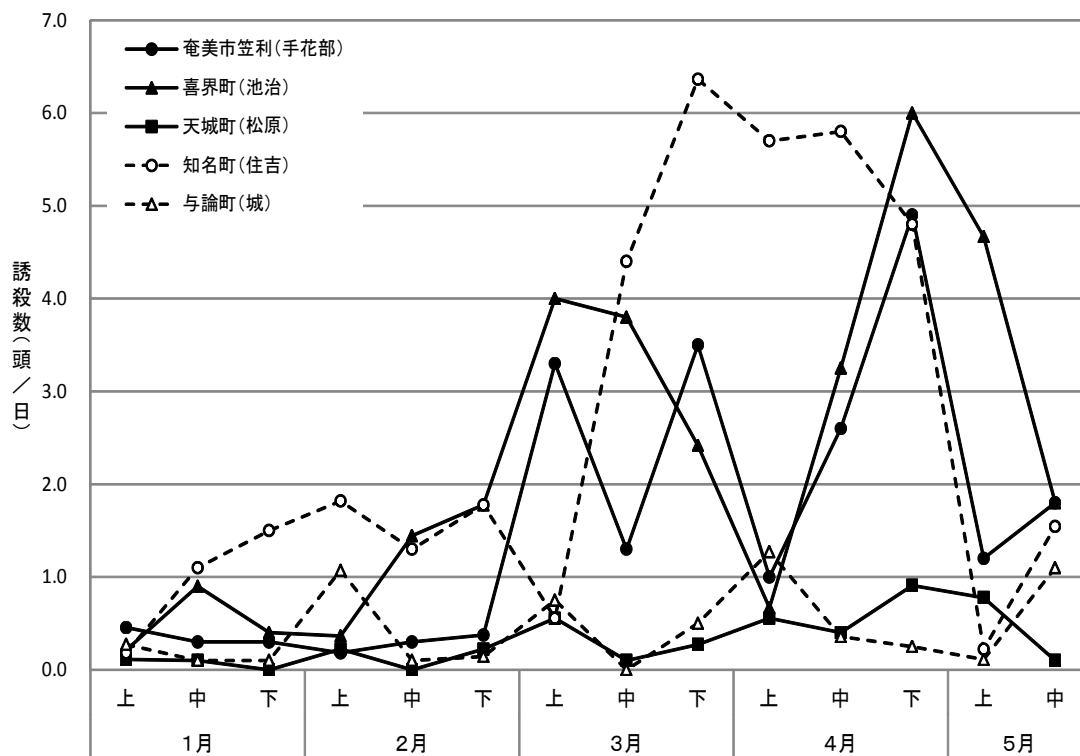
第1表 春植・株出ほ場におけるメイチュウ類による被害発生状況調査結果（5月）

年次	調査ほ場数	発生ほ場率(%)	発生程度 ^(注1) 別ほ場率(%)					被害度 ^(注2)	被害茎率(%)	
			甚	多	中	少	無			
奄美大島	本年	30	92	0	23	23	46	8	40	5.8
	昨年		83	0	3	26	54	17	29	3.7
喜界島	本年	10	70	0	0	10	60	30	20	2.1
	昨年		100		10	50	40	0	43	5.8
徳之島	本年	10	50	0	0	10	40	50	15	2.3
	昨年		80	0	0	50	30	20	33	4.6
沖永良部	本年	10	80	0	30	10	40	20	38	5.9
	昨年		100	0	0	20	80	0	30	4.0
与論島	本年	10	100	10	50	40	0	0	68	11.0
	昨年		100	0	40	30	30	0	53	9.1
地域全体	本年	70	82	1	21	20	40	18	37	5.5
	昨年		89	0	8	32	49	11	34	4.8
	平年	-	78	2	10	24	42	22	32	4.7

注1) 発生程度 甚:被害茎率 21%以上, 多:被害茎率 11~20%
中:被害茎率 6~10%, 少:被害茎率 1~5%

注2) 被害度は、発生程度別ほ場率にそれぞれ甚, 多, 中, 少ごとに重み付けをした値

$$\text{被害度} = \frac{4(\text{甚のほ場率}) + 3(\text{多のほ場率}) + 2(\text{中のほ場率}) + 1(\text{少のほ場率})}{4}$$



第1図 メイチュウ類の各島における誘殺数の推移 (奄美地域)

6 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるので除草を徹底する。
- (2) 培土時には粒剤を施用し、土壌とよく混和させ、効果を安定させる。
- (3) 粒剤施用後に被害を確認したら、スミチオン乳剤を葉鞘内に十分薬液が浸透するように丁寧に散布する。なお、1週間おきに2～3回散布することで防除効果が高まる。
- (4) 農薬の使用に当たっては、表示ラベルを確認の上、使用基準を遵守するとともに、飛散防止に十分注意する。



写真1 イネヨトウ幼虫



写真2 ほ場周辺部で畝に沿って芯枯れ被害を受けているほ場
(5月20日, 奄美市笠利町)